

ぱるす

発行日 2004年12月20日 第17号

発行 札幌歯科医師会立口腔医療センター

〒064-0807札幌市中央区南7条西10丁目

TEL (011)512-9497 FAX (011)511-2272

<http://www.dnet.or.jp/center/>

E-mail omc-s@dnet.or.jp

発行人 菊田浩一 発行責任者 鶴岡一彦

障がい者歯科医療の現状とこれから その1 現状



札幌歯科医師会口腔医療センター総務部長 戸倉 聡

皆さんはじめまして、口腔医療センターで総務部長を務めている戸倉です。センターでは快適に歯科診療を受けられているでしょうか。

ご不満な点、お気づきになった点などありましたら、担当の先生もしくはスタッフに何なりとお伝えください。今後の診療に役立てていきたいと思っております。

センターの障がい者歯科診療は昭和57年12月にスタートしました。その後、昭和58年11月には全身麻酔下での歯科診療体制を整備し、平成10年4月からは食べることに障がいを持つ方のために摂食・嚥下リハビリテーション外来を開設しました。

この間、歯科診療以外にも、施設に入所している方の歯科保健衛生の向上を目的に施設職員対象保健講習会、在宅・施設等で高齢者等の介護に携わる方を対象とした介護・口腔ケアセミナーを立ち上げました。更にセンターの紹介にとどまらず、広く札幌市民に障がいを持つ方を取り巻く医療環境を知ってもらうことを目的に、この情報発信機関誌「ぱるす」の発刊とホームページ(<http://www.dnet.or.jp/center/>)の公開を行い、現在に至っています。



さて、スタートから22年を経過しようとしているセンター障がい者歯科診療ですが、その現状をお話すると共に今後どのような方向に進むべきか、センターとしての展望を述べたいと思っております。

ノーマライゼーションが謳われて久しい昨今、障がいを持つ方を取り巻く歯科医療環境はどれだけ改善されたのでしょうか。

センターでの歯科診療がスタートした22年程前と比べると札幌市内に歯科医療機関は劇的に増加し、その中で障がいを持つ方を診ることのできる歯科医療機関も徐々に増えてきていると思っております。また私が学生時代には皆無であった「障害者歯科」の講義が、現在の歯科大学のカリキュラムには相当数含まれています。少なくとも若い先生は講義は受けているのです。したがって医療を提供する側の準備は出来つつあるといえます。



さて皆さんは風邪をひいたり病気にかかった時、どこの病院を受診しますか？健康に関する相談や風邪であれば近所の医院（一次医療機関と位置づけます）でしょうか。病気であればもう少し遠くの中核病院（二次医療）あるいは隣の街の大学病院（三次医療）かもしれません。障がいのあるなしにかかわらず、自分の健康に不安なく地域で生活するためには、このような医療環境（医療圏）の整備が必要なのです。ところが歯科ではこの医療環境の整備が著しく遅れています。あるのは近所の歯科医院（一次医療）と大学病院（三次医療）だけという地域がほとんどです。

皆さんご存じのように医療機関では標榜できる（看板に出すことのできる）診療科名は限られていて、歯科では「歯科」「小児歯科」「矯正歯科」「歯科口腔外科」の4つだけです。したがって、ほとんどが個人開業である歯科の場合、歯科医院の外観や医院名、看板から障がいを持った方の診療に対応できるかを判断することは困難です。

この現状では、障がいを持った方が歯科の病気にかかった時に、どこの歯科医院で診てもらえるのかもわからず、一方で大学病院は患者さんで溢れかえっているという事態に遭遇してしまいます。

では障がいを持った方のための歯科医療はどうあるべきか、その中でセンターの果たすべき役割は何か、このあたりは次号でお話ししたいと思います。

稲垣 貴子さん

いつも口腔医療センターには大変お世話になっています。^{いながき よしこ}稲垣 貴子です。



今回の定期検診に行った時「原稿書いて」と言われ引き受ける事にしました。引き受けたものの何を書いているのやら迷った末、私の通っているディサービスの事を書きます。

私の通っているディサービスは、去年サービスを開始しました。最初は10人くらいしか入れない狭いマンションからのスタートでしたが、今ではたくさんの人が利用しています。



若者からお年寄りの比較的障害の軽い人達が幅広く来ています。

利用時間は月曜日から金曜日の午前10時～午後4時までで、手芸・革細工・麻雀・将棋・碁・パソコンなど思い思いの作業・娯楽をして一日楽しく過ごしています。

時々集団で外出もします。花見や雪祭りのような季節の行事、大丸、ステラプレイス、ジャスコ元町店など話題のお店にもみんなでワイワイ出かけます。

そんな時よく写真を撮ってもらうのですが、私の「**歯**」がピカピカで笑顔がまぶしいとほめられました。

これも口腔医療センターでの定期検診のお陰だと思います。

「私のチャームポイントは《**歯**》なので～す!」と胸を張って言えます。

ところでディサービスでT字型の歯ブラシは大好評で「貴子ちゃん又歯ブラシ買って来て～」と頼まれるんです。ユニバーサルデザインなので、左手しか使えない人にも使えて大変喜ばれています。

これからもチャームポイントは歯です。と言えるように口腔医療センターに足を運びますので宜しくお願いします。



樋山 なつ美さんのお父さん



メリークリスマス

”虫歯があるな”と分かってはいましたが、とても歯医者に行くことは考えられず、乳歯だし何とかなるだろう(なってほしい)と思っていました。しかし、そのうち歯茎が大きく腫れ、本人も「痛い」と意思表示するようになり、意を決して電話をしたのはなつ美が幼稚園の年中頃で、あれから約2年半本当にお世話になっています。

ネットでの治療は知っていましたが、1回だけならまだしも継続しての治療は無理と思っていました。何より本人に精神的な影響が残るのが怖く、全身麻酔による1回だけの治療を考えていました。

しかし、先生から今の状況や今後の治療について丁寧な説明を受け、全身麻酔だと結局歯を抜くしかなく、歯を残すことも大切なことであり、何よりなつ美本人を信じて治療をしていくことに決めました。

思ったとおり治療は大変で治療室に入る段階で大騒ぎ、ネットを掛けるまでに一仕事、治療後には汗で濡れた下着を着替えて帰るほどの抵抗振りで、たまに静かだなと思って見ると疲れはてて寝ていたりしていました。

本人も大変だったでしょうが、ここまでこれたのはセンターのスタッフの皆さんのおかげで本当に感謝しています。

そうして1年くらいが過ぎ、だんだんと待合室の中までは大人しく入るようになりました。

そんなある日、なつ美が診察日でもないのに急に「歯医者さんに行く」と言ったため、あわててセンターに連絡し連れて行ったところ、黙って椅子に座り歯のチェックを受けたため、あの時には本当に驚きました。



今は検診が中心ですが、センターに着くと私より先に歩いていき一人で自動ドアの中に消えていきます。



我が家の壁—
自分で貼ります



最近の絵です

社会福祉法人 朔風ワークスふっき (かえで) 作業室



私達はワークスふっきになってから給食が始まりまして12月で1年きます。利用者の皆さんはおいしかったです。ごちそうさまでしたと給食の栄養士さんやおばさん達にお礼の言葉をいってます。栄養士さんから好きな食べ物をリクエストを2個書きます。私は好きなメニューは当たることではないでしょう。



話はかわり私達の仕事はしめ飾りです。(小物)と(カレンダー)も作っています。しめ飾りも1つでも皆さん宜しくお願ひします。`かえで`は年内12月28日で御用納めとなります。皆さん今年のかえで11人の利用者のチームワークで心を込めて作った作品です。

来年もよろしくお願ひします。体に気をつけてよい年を迎えて下さい。



`かえで`の仲間といっしょに

私は現在9月4日土曜日よりヤマダ電機のパソコン教室へ入門し最初は無料で次からお金を払って1ヶ月に4回いってますが先生は4人います。やっとローマ字をクリアしました。これからは年賀状とクリスマスカードの印刷の仕方を習いにいきます。



2005カレンダー 力作ぞろいです



大阪府歯科医師会の夜間緊急診療所を
視察してきました！

救急診療部副部長 隅田恭介

11月13日（土）、センター所長の菊田先生、総務部長の戸倉先生、救急診療部担当の上田衛生士と私（隅田）の4人で、今年の6月にオープンした大阪府歯科医師会の夜間緊急診療所に行ってきました。



診療時間は午後9時から深夜（？）の午前3時までと、札幌よりずい分遅くまで診療しています。

そのため、深夜でも患者さんに安心して治療を受けていただくことができるよう、警察官が診療所を巡回したり、防犯カメラ、非常通報スイッチの設置など、防犯対策が徹底されていました。

（受付の職員さんは、なんと警察官OBなんですよ！）

今回の視察を参考にして、市民の皆様に、これからもより良い救急医療を提供するために頑張りますので、今後ともよろしくお願ひします。



障害者歯科学会に参加させていただきました

歯科衛生士 大竹 桂子

去る11月13・14日に、大阪歯科大学楠葉学舎において開催された「第21回障害者歯科学会」に参加させていただきました。『障害者歯科学会』とは私達と同じく、障がいを持つ方々への歯科治療に取り組む全国各地の歯科医師や歯科衛生士の「情報交換の場」です。

「こんな患者さんには、このように取り組んだらうまくなりました」

「こんな方法を取り入れたが成果がみられなかった」・・・などなど。

今回は主に「教育講座」を聴講してきました。講師の先生方（全国的にかなり有名な方々らしいのですが・・・）があげた題として、「痛くない歯科治療」、「治療を拒否する患者さんへの対応」、「はみがき指導の限界とその対応」など、基本的なことではありますが、誰もが二度・三度と壁にぶつかり悩むことでもあります。

各先生のお話を聞きながら、私が携わってきた患者さんの顔が次々と頭の中に思い出されました。「あの時はあれでよかったんだ」「あの時はもっとこうすればよかったのかも・・・」と、自信がもてたり、反省させられたり。日常の診療の中で忘れてしまいがちな大切なこと「基本の原点」に、また改めて立ち返ることができた思いです。

また、ここ数年の間に盛んに他職種の方々とのチームアプローチが叫ばれています。看護師をはじめ、理学療法士、言語聴覚士、心理相談員、養護教諭など、一人の患者さんに対し様々な角度からフォローする必要があると考えられています。

歯科の領域だけでなく医療や療育の場で同じく障がいを持つ方と関わっている方のお話を聞き、やはり目指すところは同じ「障がいを持つ方がいかに日常をより良く過ごすことができるか」なのではないかと感じました。

今回得たことを十分に生かし、皆様のために良い口腔医療センターとなるよう、これからも努力していきたいと思ひます。





21世紀`モップ型`歯ブラシを
すすめて

歯科衛生士 横濱 峰二子

歯みがきの指導を受けている脳性マヒの橋元里佳さんは、従来の型の歯ブラシで毎日歯みがきの練習をがんばって来ていました。

しかし、1回の歯みがきに30分以上かけても、歯と歯肉の境目等のプラークを取り除く事が出来ず染め出しをしても口の中は真っ赤に染まる状態でした。

そんな頃、手が不自由な方でも歯ブラシを歯肉にあて、上手に磨ける方法はないかと苦戦しておりました。そこで真っすぐな歯ブラシの‘え‘の部分を切り、横に付けなおして作り変えてみようと思いついたその時、偶然にも西沢くんのお母さんから「こんな横型の歯ブラシがでているよ」とご紹介いただきました。

それがモップ型歯ブラシの「Tくん」「よこやま君」との出会いでした。

里佳さんにさっそくその歯ブラシで磨いてもらいました。すると「この歯ブラシはにぎりやすいので、歯ブラシ時間が短縮出来ます」とのご返事を頂きました。

次に自閉症の患者さんにも使用出来ないかと思い t r y。 これまたビックリ!

歯ブラシを1~2回動かしてはポイとすててしまう患者さんが数十回みがいて来ています。

傍らで見ていたお母さんも「私も使ってみたい」と親子で使い始めました。

このモップ型歯ブラシは、歯ブラシ操作が簡単で奥歯や歯の裏側も磨きやすいので楽しく歯みがき出来ます。それが障がいをお持ちの方や、保護者・施設の先生に気に入ってもらえる理由だと思われれます。



—第2回介護・口腔ケアセミナー開催—

企画研修部長 中澤 潤

介護を受けている方のお口の中をきれいにしたり、お口のまわりをマッサージすることは体全体を健康にすることにつながります。

センターでは広く口腔ケアを推進するために介護・口腔ケアセミナーを行っています。

平成10年度スタートし、前回までに16回の開催、596名の受講がありました。通算17回目となる本年度第2回介護・口腔ケアセミナーが11月10日(水)に札幌市在宅福祉サービス協会白石ヘルパースターの職員の方を対象に開催され、81名の参加がありました。講義を私、中澤が担当その後の嚥下体操を藤原歯科衛生士長が担当しました。

また口腔ケアの重要性を歯科医師会会員にもアピールしようと12月4日(土)に開催された第18回 札幌歯科医師会 会員研究発表会で企画研修部の齋木 章先生と魚津 修司先生がこれまでの口腔ケアセミナーの成果、これからの展望と将来扱うべき講演内容について発表しました。

なお次の口腔ケアセミナーは来年1月19日(水)に歯科医師と衛生士を対象に企画中です。

よく食べられて元気になる診療を実現するにはどうすればいいか企画部みんなで頑張っているところです。



冬の温泉というのはまた格別です。でも4、5年前の冬、露天風呂に入っていたら突然猛吹雪になって出られなくなり、体は熱いのに頭は凍ってしまい難儀をしました。

皆さんも「冬の露天風呂」には気をつけましょう。

そして風邪をひかないように 注意して元気に冬を乗り切りましょう。

(企画研修部長 中澤 潤)

